

智恵子のエプロン

高村光太郎記念館
ミニギャラリー

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



岩手県立花巻南高等学校家庭クラブ制作

復刻展示



智恵子デザインの
エプロンを高校生が
つくりました
素敵なエプロンと
制作過程を展示

令和7年7/15(火)～8/21(木)

* 8/4 (月) 10時から 高校生から来館者に手作りしおりプレゼント (なくなり次第終了)*

高村光太郎記念館

岩手県花巻市太田 3-85-1 ☎0198-28-3012

高村光太郎氏の御宅に伺ったとき、手を拭きながら出ていらした夫人が、ほんとうに面白い前掛けをかけておらつしやいました。何だかわからない厚地の渋い茶色に印度更紗を取り合せてある、めづらしい形ちのものでした。早速拝借して来たのがこの写真のものです。

布地はお酒をしぼる時に使った袋なのです。色も厚さも丁度ズツクのやうで、これに古代更紗でふちが取つてあるのです。エプロンの中央には随分大きなポケットがついて居ります。このポケットは大変役にたつので、お炊事の際に一寸ふきんをはさんでおいたり、お仕事の時は、鋏や糸など失しやすいものを入れておいたりすることが出来ます。而もその形が如何にも大まかなので、よく全体の調和を保つてゐるのです。

何でも有り合せの布を利用して、うまく配合させると、中々面白いものになります。夫人がもう一つ見せて下さったのは形は同じで、キヤラコの地に、水色の四角な輪を散つてゐる麻布を取り合せてありました。大変すゞしうに見えました。雑ばくな仕事着よりずつと趣味が豊かで上品なかんじがいたします。一寸したお客様の時なら着たまゝで出てもしつかへはないでせう。

作り方は左の図をごらんになればすぐわかります。これは頸にかける紐が輪になつてゐますが、髪が崩れる恐れがありますから、紐の中央を裁つてホツク止めにするか、紐の一方の端だけはなしておいてこれにスナツプをつけ、胸の三角形の所にとめ合せるやうに工夫したらよいでせう。着物の場合、袂は左右についてゐるひもでしつかり結ぶと大丈夫となります。

『婦人之友』第18巻第7号（大正13年）の記事



今回展示するエプロン
(花巻南高校家庭クラブ制作)

何だか現代でも売っていきそうなデザインですね。大正末といえ、まだ婦人は和装が中心だったのではないかと思われ、家事の際にはエプロンより割烹着的なものが多かったのではないのでしょうか。その時代にこのエプロン、斬新だったかもしれません。

素材が「お酒をしぼる時に使った袋」ということで、智恵子は福島の実家・長沼酒造から持ち帰ったのではないのでしょうか。

同運営委員会代表 小山弘明氏

「高村光太郎連翹忌運営委員会 blog」より

同時開催事業

令和7年度特別展

「中原綾子への手紙」

令和7年

4/26（土）～2/28（土）

令和8年

高村光太郎疎開80年企画展

「昔なつかし花巻駅」

令和7年

7/12（土）～11/30（日）

高村光太郎記念館 開館午前8時30分 閉館午後4時30分 休館日12月28日～1月3日

入館料 一般350円 高校生・学生250円 小中学生150円（20人以上の団体は一人あたり50円割引）